

jet PRELUDE

SUMMER 2015

jet新テキスト研修レポート&座談会

楽しさ満載!
子どものレッスンを変える
研修参加者に聞く新テキストの魅力とは?



新テキスト
研修レポート
&
参加者座談会

さあ、始めましょう!

楽しさ**満載**のjet新テキストで レッスンを変える。子どもが変わる!



jet新教材「だいすきドレミ〜ふしぎなくるま〜」と「だいすきエレクトーン1」の発刊を受けて、2015年2月末から3月末にかけて「jet新テキスト研修」が開催されました。全国8会場・15回にわたる研修には、合計で約1,300名にのぼるjet会員が参加。新しいテキストの考え方や活用法に、熱心に耳を傾けていました。ここでは3月18日(水)に、jet本部のある東京・渋谷のエレクトーンシティ渋谷メインスタジオで行われた研修のもようを写真でご紹介します。



ときには楽器から離れて
全身で音楽をとらえる練習も大切

新入会生徒の8割は幼児・児童初期
耳から無理なく感覚中心の指導を



マーチのリズムで動物たちが行進するページでは、生徒も先生もいっしょに行進。「手足を振って元気よく!」という川島先生のかけ声に、生徒役の先生方も一所懸命



「jet資料室」掲載
指導資料について

※配布資料をダウンロード

研修の冒頭では、jet本部指導室長の鶴田義博先生が「絵本の視覚的な楽しさと良い音楽を耳から聴く体験で、もっとも音楽的感性や感覚が伸びる幼児・児童初期の指導を、さらに多いものにしたい」とあいさつ



自分の生徒のレッスンに向けて
新テキストの指導法を熱心にメモ

会場が笑い声に包まれる中にも、客席のあちこちで川島先生の解説に熱心にメモを取る会員の先生方の姿が



テキストに登場する楽器屋さんのトラックのクラクションに合わせて、鍵盤で「ブッー」。東京エリア指導スタッフの生貝隆先生が生徒になって模擬レッスン

クラクションを黒鍵盤で「ブッー」
物語と音楽がイメージを膨らませる

「新テキスト研修」は、PCオンデマンドセミナーでもただいま好評配信中!

ぜひご覧ください!

<http://bit.ly/1Dq7xeY>

子どものワクワクする気持ちを 音楽表現力に育てる レッスンをめざして

新しい教材の魅力や活用法に、今回の新テキスト研修で初めて触れたjet会員の先生は少なくないはず。そこで今回は、東京での研修に参加された3名の先生および川島千加子先生にお越しいただき、研修のご感想や新教材の印象、今後のレッスンへ向けた抱負などを語っていただきました。

jet会員(五十音順)

坂下百合子先生
山野楽器銀座支部

平間由美子先生
有隣堂支部

三井章子先生
ヤマハミュージック
リテイリング横浜店支部

テキスト制作スタッフ

川島千加子先生

司会

PRELUDE編集部



くまで音楽表現の指導という目的地に子どもを誘導する際に、物語という子どもの気持ちを強く惹きつける素材の力を借りるのがねらいでした。

レッスンする面白さや心地よい緊張感を、自分の生徒たちにも伝えられたらと思いました。

絵本のお話に着かれて
生徒の自発性がめばえた

カラフルさと楽しさ 「聴かせる指導」の新鮮さ

——今回の新教材と、新テキスト研修に参加された印象をお願いします。

坂下…まず、非常に多くの色が目から飛び込んでくるというのが最初の印象です。音源も非常に力を入れて作られたことがわかり、何より、とてもかわいくワクワクした気持ちを感じさせてくれるテキストです。

三井…私も研修での第一印象は「楽しかった」です。実は研修前に自分なりに考えてレッスンで

使ってみたのですが、歌ったり手足を動かして楽しむといった新しい展開法にややとまどっていたのが、研修を受けて理解できました。また「テキストであると同時に、1つの物語を持った絵本でもある」というコンセプトも最初は具体的に理解できませんでしたが、研修で十分な説明をいただきました。

——川島先生ご自身は、新しいテキストでは物語を軸にするということを当初から意識されていたわけですか。

川島…そうです。ただし「テキスト、絵本兼用」ではなく、あ

——絵本の楽しさに惹かれて、生徒さんが自発的に音楽表現に向かうきっかけを作ろうと考えられたわけですね。平間先生はいかがでしたか。

平間…新テキストの特長を一番強く感じたのが、「まず耳から聴かせて(レッスンに)入っていく」ということでした。これは今までのjetの指導法でも繰り返し言われてきましたが、今回それがもっとも強くはつきりとわかる形でテキストに表れている印象を受けました。加えて、身体を使うレッスンも印象的でした。研修では、歩いてみたり手をたたいたりを先生からその場で指示され、即時に反応をするということも経験しました。そのうした先生とコミュニケーションをとりながら



平間由美子先生

——新テキストを使って、どのようなレッスン展開をお考えですか。すでに教室で使い始めている場合は、その成果もお聞かせください。

三井…レッスンの始めに物語の導入部の文章を読み聞かせすると、それだけで子どもがすんなりとレッスンに入っていくきました。またテキストの最初に出てくる「ふしぎなくなるま」という曲では、まだ曲も歌詞もおぼえていない子が、何とか自分も歌いたくて一所懸命についてこようとしています。以前は「ここはこういう気持ちで歌ってね」などと絶えず呼びかけていたのが、一切なくなりました。

坂下…幼稚園の生徒のレッスンで、玄関からレッスン室に入って挨拶してその日のレッスン

シールを貼るところまで、ずっとCDの1曲目の「ふしぎなくるま」をBGMで流しながら、私も一緒に歌って聴かせていました。レッスン



坂下百合子先生

開始までに2、3回は繰り返し聴くことになるのですが、その間テキストを開いて置いておくと、目次のイラストマップを指差しながら、「プップー」とクラクションの口真似をしたり、「誰が車に乗っているのかな」などといいながら、1人遊びのようにして楽しんでいるのです。

——目から入ってくる絵本と耳から聴くCDで、生徒さん自身が抵抗なく曲の中に入り込んでしまうんですね。

坂下…慣れてくるとエンディングのメロディーに合わせて鍵盤を弾き出したり、イラストの中の小さな橋を指さして「車が通ってこわれない？」などと、私の気がつかないようなところにまで想像力を巡らせたりして驚かされています。

三井…最初に新テキストを見た時には、子どもが絵本の楽しさ

に引っぱられて、レッスンの進度と別にお話の先を読みたがるのではという懸念も感じました。しかし実際には、坂下先生が言われるように、

今見ているページの中でいろいろな発見をして楽しんでいます。むしろ指導者こそ、そうした子どもの積極性を活かしながら、うまくレッスンを誘導し、課題と結びつける工夫が必要だと思います。

聴く楽しさを原動力に 音楽学習のスタートへ導く

——子どもたちの絵本への興味や曲を楽しむ気持ちを、どのよう
にレッスン本来の音楽指導という目標に誘導していったらよいでしょうか。

川島…そこは先生方にとって、とても重要なポイントです。導入の段階で盛り上がるのはよいのですが、それに安心して楽しむばかりではなく、絵本に惹かれて曲に耳を傾けた子どもがどう反応しているかを、注意深く

観察して欲しいのです。曲への反応や理解の程度を正確に見きわめながら、レッスンのスタート地点である「聴く」という場所まで誘導してあげてください。

——単に聴いて楽しむところからもう一歩踏み込んで、音楽レッスンの最初のステップとしての「聴く指導」へと進んでゆく必要があるんですね。

川島…「教える、学ばせる」という意識が常に指導者の側にないと、つい楽しさに身をゆだねて漫然と毎回のレッスンを繰り返す危険があります。聴くだけでなく、たとえば「腕を振って歩く」とか「手をたたく」といったレッスンも、まず「よく耳を使って、聴いて合わせる」力がないとなかなか前に進んでいきません。しかも幼児期・児童初期の子どもは、どんどん変化していきま
す。その変化を毎回正確に見きわめながら、楽しさの中に緊張感のあるレッスンを展開していく必要があります。

——生徒と一緒に
楽しみながら、そ



川島千加子先生

の楽しさをどうレッスンの課題や目標につなげていくかが指導者の腕の見せどころですね。

川島…音楽指導の最終目標は、幼いころに感じた音楽の喜びや感動を忘れず、みずからの音楽の言葉で表現ができる能力を身につけさせることです。言いかえれば、生徒がこの新テキストで感じた最初のワクワクした気持ちを、その後メロディーをドレミで歌えるようになり、鍵盤で弾ける段階までずっと持ち続けられるように指導を展開していくことが、私たちの大きな使命であり課題なのです。

——新教材が重視した「まず聴いて楽しむ」というのは、そうやって生徒さんが成長して自分自身の音楽を表現する能力をきちんと身につけるための、まさに最初の一步だということですね。

川島…それもただ聴かせる、繰り返し聴かせるだけでは身につけません。大切なのは「いろいろなことに気づく耳」を育てることです。たとえば、先生が弾いた音を即座に歌って返すといった反応力など

研修参加者の声
(会場アンケートより)

- 気持ちも新たに自分のレッスンを見つめ直したい。
- レッスンビデオ、アイデアが参考になった。
- テキストをみんなと研究して指導につなげたい。
- 1回のレッスンに、いろいろな要素を入れたカリキュラム作りをしていきたい。
- 伴奏などレッスンの準備をしっかりしなければ!
- 保護者の協力と理解が大切ですね。
- 小さい子どもを教えたくまりました。まずは生徒募集!
- あらためて、エレクトーン楽しさを感じることができました。



三井章子先生

もそのひとつです。それには、子ども自身が「なんだろう?」と思って聴く、対象に食いついて聴くような意識づけが必要です。これをレッスン展開の視点から見れば、先生自身が生徒とそういう緊密な、緊張感のあるレッスンを常に展開できているかと

いうことでもあります。

新しいテキストは楽しさいっぱいですが、その楽しさを音楽の能力に変えるのはやはり先生の指導力に他ならないというわけですね。

川島…その通りです。このテキストは、生徒の興味や楽しさを十分に引き出すことができると思自負していますが、その意欲を本当の音楽表現の能力に育てていくのは、やはりjetの先生自身にしかできないことなのです。

新教材の特長を活かして
課題解決型レッスンを探る

最後に、会員の先生方の新教材活用に向けた抱負をお願いします。

坂下…まだまだ私もCDを十分に聴き込んでいるとはいえません。生徒に与えると同時に、私自身もどんどんこの新教材の曲を身体にしみ込ませていって、自分で感じた楽しさやワクワクする気持ちを土台に、本当に生徒が喜んでくれる指導法、そして実力がつく指導法を探ってい

きたいと思えます。

平間…この新教材は、イントロからエンディングまで曲の表現すべてをとっても大事にしていると感じます。現在グレードを受験する小学生に曲のイメージを言葉がけしても伝わりにくく、またどういうイメージで弾いているのか尋ねても答えられない子が少なくありません。この教材で幼児期から音楽表現をきちんと指導していけば、そうした問題も解決してゆくのではと期待しています。



三井…「すてきなおみせ」という曲は最後がドで終わるので、最後に一緒にド

を弾きましょうと言うことで、エンディングをおろそかにせず曲を最後まで聴く習慣をつけるようなレッスンを試みたいと思っています。実はすでに現在も、レッスン中お話をしながら女の子に、「最後のドを弾くまではあなたの曲だから」と言い聞

かせて、曲に集中させるといった指導もしているところですが。これから皆さんが実際のレッスンで活用される中で、どんどん素晴らしい成果や新しい指導法が生まれてきそうですね。本日はどうもありがとうございます。

教材対応データ(レジスト+サポート+参考演奏付)
ただいま好評発売中!

Mumaまたはエレクトーンデータショップよりお求めください

- 「だいすきドレミ～ふしぎなくるま～」1,200円(税抜)

Muma 商品コード ELS-02/02C:GE032866
ELS-01/01:GE032867 ELB-01:GE032868

- 「だいすきエレクトーン1」1,200円(税抜)

Muma 商品コード ELS-02/02C:GE032869
ELS-01/01C:GE032870 ELB-01:GE032871

※対応データは、各テキスト対応CDと同様のアレンジです。
歌詞楽曲のデータは含まれていません。



●新テキストの指導資料は「jet資料室」に掲載しています。くわしくはPRELUDE 2015年春号の6ページをご覧ください。